東日本大震災の被災地の子どもたちを支援する、信頼の仕組み「ウェブベルマーク」 復興支援

博報堂

「ウェブベルマーク」はウェブで行うベルマーク運動です。東日本大震災で被災した学校の支援を目的とし、2013年9月にスタートしました。アフィリエイトという広告手法を活用し、「ウェブベルマーク」のサイトを経由して協賛会社のサイトで買い物をするだけで、購入金額に応じた支援金が協賛会社からウェブベルマーク協会を通じてベルマーク財団に送られる仕組みです。2014年度は「ウェブベルマーク」サイトからの1クリック募金システムの追加、SNSとの連携による情報拡散を実施し、より参加しやすい機能を高めました。その結果、2014年12月には会員が1万人を超えるまでになりました。

「チャリティー年賀状」で被災地の子どもたちに笑顔を！ 復興支援

博報堂アイ・スタジオ

「チャリティー年賀状」とは、全国の学生がデザインした年賀状を販売し、東日本大震災被災地の子どもたちを支援する取り組みです。全国の学生から応募された作品の中から優秀作品を「チャリティー年賀状」として商品化、ウェブサイトで年賀状の作成から宛名書き、投函までできる「ネットで年賀状」と「スマホで年賀状」として販売しています。1枚ご購入いただくごとに支援金10円を「ウェブベルマーク」へ寄附し、被災地の小中学校に必要な備品・設備・教材などの購入に充てていただきます。また、特に支援に貢献できた作品や後援企業団体が選んだ作品に賞を授与しています。

国連防災世界会議のプレイベント「国際地域女性アカデミー」を支援 復興支援

博報堂

世界各国から集まった女性リーダーたちが学び合う場「国際地域女性アカデミー in Tohoku」が、国連防災世界会議（於仙台市）のプレイベントとして2015年3月に宮城県南三陸町にて開催されました。

防災減災や、地域づくりに女性の視点を活かすために、海外及び東北3県から集まった約60名の女性リーダーとともに南三陸町住民150人が意見交換をしました。企画から運営までを博報堂社員がサポートしました。

「東北グリーン復興」事業者パートナーシップ 復興支援

博報堂

「東北グリーン復興」は、復興庁が推進する「新しい東北」先導モデル事業で、東北の生物多様性の恵みを、地域資本として守りながら活用することを支援する事業です。

2014年度、博報堂は（株）河北新報社と組んだグリーン復興の事例をアーカイブするウェブサイトの開発、東北大学生態適応センターと協業のビジョンワークショップの実施、浦戸諸島のエコウォーク、南三陸における林産業の振興等の新価値事業創造の実施サポートを行っています。

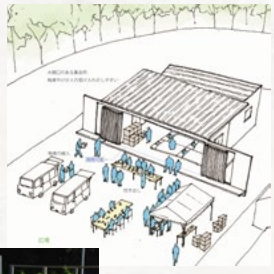
陸前高田市長洞元気村における“ミライニホン東北”プロジェクト 復興支援

TBWA\HAKUHODO\QUANTUM

QUANTUMは、既存の広告業務にとらわれずにイノベーション創出を目指している組織です。復興庁が推進する「新しい東北」に参画し、岩手県陸前高田市広田町にある仮設住宅団地「通称：元気村」にて活動しています。

震災直後、家を失った人は残った同じ集落の高台の民家に分宿していましたが、住民自ら地権者と交渉し、集落内に用地を確保。市や県も説得し、被災した世帯が集落の中で、一緒に生活できる26戸の仮設住宅団地を実現したのが「通称：元気村」です。

地区住民の皆様とのワークショップを通じた村のビジョンと集会室プランを策定しました。プロジェクト推進にはまだまだ課題が残りますが、村のビジョンや集会室プランを練るプロセスがコミュニティ強化のきっかけになればと思います。



被災した田んぼにひまわりを種蒔きする活動から始まった、地域の農業や子どもたちを支援するプロジェクト「ふくしまシード」 復興支援

読売広告社

2011年4月に立ち上げた「ふくしまシード」では、震災によるダムやパイプラインの決壊で田植えができない田んぼにおいて、復興のシンボルであるひまわりを育てるという計画を立てました。日本全国の小中学校321校からひまわりの種を寄付いただき、活動は鏡石町や福島空港など計5ヵ所に広がり、あわせて約20ヘクタール、東京ドーム4個分の壮大なひまわり畑が誕生しました。2012年以降は、幸い田んぼも復旧したため、ひまわりの活動は縮小しましたが、この活動から派生して始まった須賀川市での小学生絵画・作文コンクールは毎年開催しています。

東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）クリエイティブ・広報・企画サポート 復興支援

博報堂／東北博報堂／博報堂DYインターソリューションズ（博報堂DYメディアパートナーズグループ）

JCNは、被災地の支援活動をしている約600の団体を取りまとめる組織です。博報堂DYグループは、JCNの設立当初から事務局活動のサポートを行っています。震災後5年目を迎える前日2015年3月10日に、東京・丸の内オアゾ会場と岩手、宮城、福島をインターネット中継でつなぎ、各県の「今」を知り、話しあう試み、『東北これから会議2015』を開催し、約180名の一般の方がイベントに参加しました。1. 福島県三春町に移転している富岡町から「教育」について、2. 岩手県大船渡青年会議所から「漁業のまちを支える若い力」について、3. 宮城県南蒲生町内会復興部から「地域づくりのためにできること」を、イベント参加者とともにディスカッションを行いました。その後、場所を国際フォーラム地上広場に変えて、キャンドル点灯式とミニライブを開催。ご参加いただいた多くの皆様とキャンドルを囲み、追悼と被災地の復興を祈りました。

今だからできることがある
Walk with 東北

『ガレキとラジオ』「被災地を知る支援」 東北応援映画 復興支援

博報堂

震災後、宮城県南三陸町の小さなラジオ局に出会い、その奮闘を映画にしました。映画は2012年秋に公開され、全国20館へと上映は拡大しました。さらに一般市民が各地で「観る会」を立ち上げ、「被災地を知る支援」として自主上映会が大きな広がりを見せました。2014年には、出演者の最新の状況を加えた『ガレキとラジオ2014』として再公開され、全国20ヵ所以上で上映会が開催されました。映画を通じた南三陸町への寄付額も累計200万円を超えました。この先も、被災地のことを知ってもらうために、上映を積み重ねていきたいと思います。

スポーツの力で被災地支援「ツール・ド・三陸 サイクリングチャレンジ in りくぜんたかた・おおふなと」 復興支援

博報堂

「ツール・ド・三陸」は、東北・三陸エリアの復興と街づくりを環境にやさしい自転車イベントを通じて応援し、地域振興と広域観光の推進を継続的にサポートすることを目的としています。博報堂は、企画立案から運営実施まで携わっています。

2012年9月、津波の被害も生々しい岩手県陸前高田市で初開催。2014年秋で3回目を数えました。国内外の著名サイクリストと全国から1,000名以上のアマチュアサイクリストが集結し、約50kmのサイクリングを楽しみながら、三陸の景色と復興を肌で感じます。全国のサイクリストと住民たちが毎年心を通わせる地域活性化イベントです。

被災地復興と創造のための人材育成活動に参画 復興支援

博報堂

被災地の復興と創造のために、産官民学がセクターを超えて協働する「東北未来創造イニシアティブ」が行っている「人材育成道場」に参画しています。「人材育成道場」とは、各地域の経営人材を塾生として、事業構想をまとめ上げていく半年間のプログラムで、金融機関や監査法人、コンサルティング会社などと博報堂が持ち回りで講師を務めています。2014年度の博報堂セッションは、「マーケティング・ブランディング」をテーマに、1日半のワークショップとメンタリングを、釜石と気仙沼の2都市で開催しました。2015年度も継続し、年4回実施予定です。